



研究基盤エコシステム

～先端研究設備・機器の整備、人財、利活用、開発の好循環とは～

研究基盤EXPO 2025

開催報告 (速報版)



会 期

2025年1月23日(木)～2025年1月30日(木)

主催 一般社団法人研究基盤協議会 (CORE)

共催 文部科学省

協力 株式会社島津製作所、日本電子株式会社、株式会社日立ハイテク

後援 一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA)

主催



共催



協力



後援

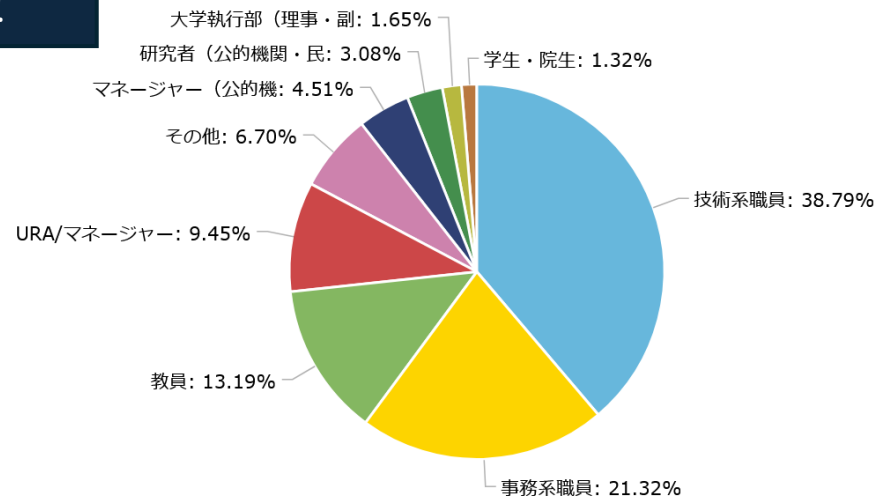




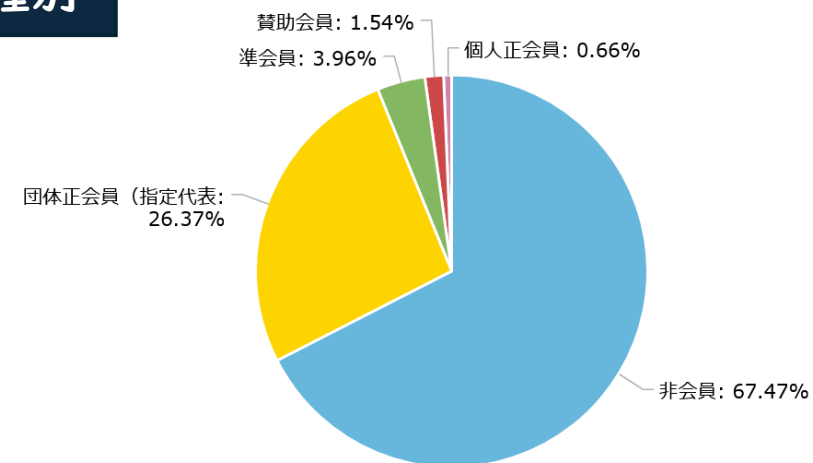
事前参加登録状況

のべ数 4,173名
実数 866名

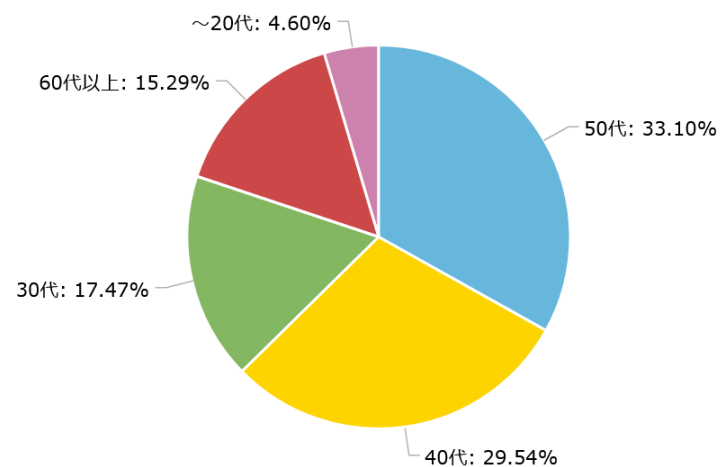
職種



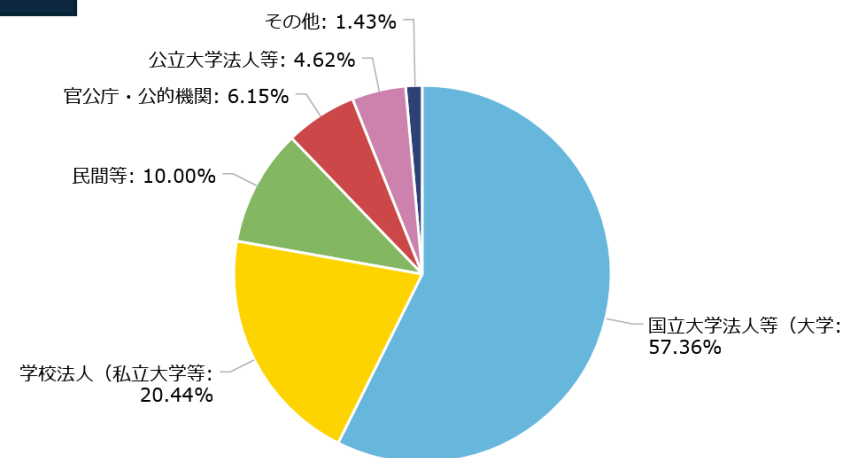
会員種別



年齢層



所属



1月23日(木) 9:45-10:00 オープニング

開会挨拶

研究基盤協議会 代表理事・会長
江端 新吾（東京科学大学）



共催者挨拶

文部科学省 科学技術・学術政策局 局長
井上 諭一



プログラム紹介

研究基盤協議会 副会長
岡 征子（北海道大学）



第4回研究基盤協議会シンポジウム

主催：岡山大学



第一部の研究基盤協議会報告に続き、第二部では研究基盤の要となる技術人財（技術職員等）にスポットを当て、育成方法や利活用を中心に好事例を紹介し、大学だけではなく、外部からの知見や情報を取り入れ、現在の課題について議論し、今後の技術人財の活躍の場を持続的に拡大していくことを発信しました。

- 申込者数：475名
- 現地参加：145名
- オンライン参加：330名（申込数）

総合司会



岡山大学 栗本有紀子

開会挨拶



岡山大学 那須保友

講評



東京科学大学 江端新吾

閉会挨拶



岡山大学 窪木拓男

第一部 研究基盤協議会活動報告

報告1



金沢大学 長谷川浩

報告2



北海道大学 佐々木隆太

報告3



東京科学大学 植草茂樹、江端新吾

特別賛助会員 企業プレゼンテーション ～最新技術情報と研究基盤戦略～ 株式会社島津製作所

企業プレゼン



島津製作所 田邊彩乃

ポスターセッション



第二部 技術と人財の交差点 ～産学官連携の可能性を探る～



※敬称略

1月24日 (金) 9:00-12:30 研究基盤協議会「共創の場」シンポジウム

主催：研究基盤協議会



第1部 ヘリウム未来革命 ：資源循環で築くサステナブルジャパン

NMR・MRI機器や超電導技術、産業用レーザーなどの先端技術に広く使用されている希少な物質、ヘリウム。産業や研究基盤を支えるヘリウムリサイクルは、環境保護と資源の有効利用の観点から重要な課題です。第一部では、ヘリウムリサイクルに取り組んでいる企業や大学技術職員をお招きし、議論しました。

第2部 現場を紡ぐ若手ネットワークの挑戦

各大学の様々な課題解決のきっかけとなりうる交流の場づくり等において、今後若手ネットワークがどのような役割を担うことができるかを議論します。



申込者数：433名
現地参加：96名
オンライン参加：278名

第一部 TAMARIBA企画 ヘリウム未来革命：資源循環で築く サステナブルジャパン



第2部 若手NW企画 現場を紡ぐ 若手ネットワークの挑戦



1月24日（金）14:00-17:00

多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム 研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割

主催：
日本学術会議若手アカデミー、
研究基盤協議会

**多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム：
研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割**

主催 日本学術会議若手アカデミー・学術の未来を担う人材育成分科会
一般社団法人研究基盤協議会

参加無料・事前申込
(締切1/20)

場所 岡山大学創立五十周年記念館(現地定員 400名・先着)/Zoom

日時 令和7年(2025年)1月24日(金) 14:00~17:00

知の継承と創造、活用により世界の牽引役を目指す我が国において、学術を担う優れた研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人財(人財)であるとの意味を込めて「人財」を「人財」と表記する。人財の育成と多様性の確保は、極めて重要な事項である。近年、研究力と国際競争力の強化が叫ばれる中で、研究人財を取り巻く環境は大きく変化している。本シンポジウムでは、「マネジメント」について、若手アカデミー、研究基盤協議会、文部科学省の各立場から、課題と解決策について意見交換と議論を行う。

◆司会 植原 邦佳(一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアムコーディネーター／大阪大学総合科学研究所 技術開発専門員)

開会挨拶
14:00 小野 悠(日本学術会議連携委員／若手アカデミー／豊城技術科学大学大学院工学研究科助教)

活動紹介
14:10 小川 剛伸(日本学術会議連携委員／若手アカデミー・学術の未来を担う人材育成分科会委員／京都大学大学院工学研究科助教)
江端 新吾(一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大学総務部長兼教授・理事特別補佐(総合戦略担当))
手塚 茜(文部科学省次官のチーム)



近年、研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人財を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中で、研究開発活動全体をマネジメントするプロデューサー的人財やコアファシリティマネジャーの存在が求められています。このような人財の不足が大きな課題として注目されています。本シンポジウムでは、若手アカデミー、研究基盤協議会、文部科学省の各立場から、課題と解決策について意見交換と議論することを目的としています。

申込者数：472名
現地参加：70名
オンライン参加：288名



研究データ基盤構築とそのエコシステム化を考えるシンポジウム

主催：金沢大学

研究基盤EXPO2025
研究基盤エコシステム
～先端研究設備・施設の整備、人材、利活用、開発の好循環とは～
（会期：2025.1.23（水）～26（土））

参加登録
2024年
12月1日
開始

研究データ基盤構築と
そのエコシステム化を考える
シンポジウム

参加費
無料

日時 2025.1.27（Mon）10:00-12:00

場所 金沢大学 金沢駅前サテライト（定員45名） + オンライン配信

大学の研究設備の共同利用は、研究基盤構築の重要な要素に位置付けられ、コアファシリティ構築支援プログラムでは、設備共同利用の活発化のために、大学経営の観点から議論や、そのためのURAや技術人材の活躍など、さまざまな視点からの議論が続けられています。最近話題となっている研究データ基盤構築についても、同様に大学経営の観点や設備共同利用のアウトプットの活用といった観点からの議論も重要になると考えられます。本シンポジウムでは、「研究データ基盤構築とそのエコシステム化」について敢えて研究基盤EXPOの中で考えることにより、そのオーバーラップする部分や今後のアウトカムへの期待を議論しました。

開会挨拶、趣旨説明



招待講演 1



招待講演 2



- 申込者数：420名
- 現地参加：20名
- オンライン参加：200名（最大時）

パネルディスカッション



パネラー



講演 3



シンポジウム「地域ネットワークの連携・発展による研究基盤エコシステムの構築」

主催：山口大学



令和6年7月に科学技術・学術審議会研究開発基盤部会が公表した「先端研究設備・機器の共用推進にかかる論点整理」では、エコシステムの構築及び、現場課題の解決と全体を底上げする仕組みの構築の二つの目指すべき方向性が示されました。この論点整理の中から“ネットワーク”というキーワードに着目し、取組が進む大学を交え、工夫や課題を明らかにしながら地域ネットワークの連携・発展による研究基盤エコシステムの構築について議論を深めました。

- 申込者数：417名
- 現地参加：35名
- オンライン参加：199名

※敬称略

開会挨拶



山口大学 谷澤 幸生

閉会挨拶



山口大学 上西 研

司会



山口大学 山田 知沙



地域ネットワークの取組紹介

趣旨説明



山口大学 佐藤 晃一

3つのネットワークを推進



山口大学 水上 洋一

鳥取大学 森本 稔



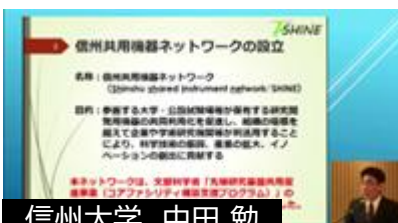
宮崎大学 境 健太郎



琉球大学 青山 洋昭



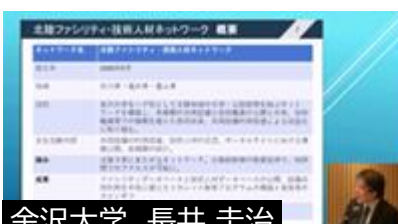
信州大学 中田 勉



群馬大学 林 史夫



金沢大学 長井 圭治



パネルディスカッション



ファシリテータ



東京科学大学 江端 新吾

コメンテータ



文部科学省 熊本 明仁



シンポジウム「私立大学の戦略的コアファシリティ2025」 ～私立大学の共用研究基盤におけるヒトと資金の好循環を考える～

主催： 早稲田大学
共催： 立命館大学
大阪工業大学
同志社大学

シンポジウム
「私立大学の戦略的コアファシリティ2025」
～私立大学の共用研究基盤におけるヒトと資金の好循環を考える～

日時 2025年1月29日(水) 10:00▶12:30

開催方法 Zoom Webinar <参加無料>

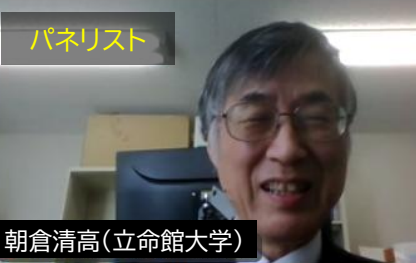
申込方法 以下の申込フォームからお申込みください。
<https://ws.formzu.net/fgen/S54281938/>
申込締切：2025年1月20日(月)



(申込フォームのQRコード)

私立大学は、創設者の熱い思い「建学の精神」を具現化し、その個性豊かな教育研究によって社会変革を目指す機関です。ヒトを育て、その能力を社会に送り出す役割を持つ私立大学は、善くも悪くも自己責任で研究基盤を整備し、独自の考えで取り組みを進めています。昨年の同シンポジウムでは、私立大学の研究基盤は、国公立大学にはない新しい視点も持ち合わせていることが明らかになりました。今回のシンポジウムでは、関西方面の私立大学からそれぞれの取り組みを紹介してもらった上で、特にヒトと資金の好循環をどう考えるか、深掘りしました。

- 申込者数：472名
- 実参加数：276名

 丸山浩平(早稲田大学)	 山本順一(早稲田大学)	 前元利彦(大阪工業大学)	 朝倉清高(立命館大学)
 天野嘉春(早稲田大学)	 石田貴美子(同志社大学)	 三浦克吉(早稲田大学)	 宮本博之(同志社大学)
 重茂浩美(早稲田大学)	 若尾真治(早稲田大学)	 江端新吾(研究基盤協議会)	 田邊彩乃(文部科学省)
 中原康行(立命館大学)	 矢澤亮(大阪工業大学)	 水澤宏之(早稲田大学)	 三好浩司(早稲田大学)

東京科学大学TCカレッジシンポジウム

主催：東京科学大学



令和2年度文部科学省委託事業「コアファシリティ構築支援プログラム」にて立ち上げた高度技術人財養成の場「TCカレッジ」もいよいよ4年目に突入し、本事業の最終年度を迎えました。TC取得者も6名を数え、その成果がさらに見える化しております。今年度は東京科学大学はもとより、サテライト校、参加校からもTC輩出の予定であり、本事業終了後を見据え、これからのTCおよびTCカレッジの展望について議論を行いました。

- 申込者数：438名
- オンライン参加者：190名
- 現地参加者：40名

開会挨拶
TCカレッジ長
江端 新吾
東京科学大学



司会・進行
石原 すみれ
マネジメント系TCコース
岡山大学



講演「TCカレッジでの学びとこれから」
稲角 直也
物質分析系TC取得見込み
大阪大学



講演「マネジメント系TCとして活躍できるか?!」
高橋 久徳
マネジメント系TC
東京科学大学



議論「TCとTCカレッジの展望」

座長：松浦 祥悟 (マネジメント系TCコース、鳥取大学)
登壇者：中山 啓子 (副学長、東京科学大学)
高橋 久徳 (マネジメント系TC、東京科学大学)
稲角 直也 (物質分析系TC取得見込み、大阪大学)
瀧 雅人 (物質分析系TC取得見込み、名古屋工業大学)
河原 夏江 (遠隔分析DX系TC取得見込み、長岡技術科学大学)
近藤 みずき (遠隔分析DX系TC取得見込み、長岡技術科学大学)



講評
文部科学省 人材政策課
人材政策推進室長
高見 暁子



閉会挨拶
東京科学大学
理事・副学長(研究・産学官連携)
波多野 睦子



令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

主催：文部科学省

令和6年度 先端研究基盤共用促進事業 シンポジウム

日時 2025年1月30日 9:30 - 12:30
会場 Zoomによるオンライン開催

事前申し込みの上、
無料でご参加頂けます。
QRコードを
スキャンorクリックして申込

産学官のすべての研究者に開かれた研究設備・機器群について、大学・研究機関全体で戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化するための活動（コアファシリティ構築支援プログラム）の集大成を報告するとともに、今後の方向性について議論します。

9:30 開会挨拶 井上 諭一 文部科学省 科学技術・学術政策局長

コアファシリティ構築支援プログラム 令和2年度採択校による事業取組の集大成

9:35 北海道大学 網塚 浩 グローバルファシリティセンター長／大学設備・研究施設、経営部長

9:55 東京科学大学 岩附 信行 リサーチインフラ・マネジメント機構 副機構長・研究基盤戦略室長 教授

10:15 金沢大学 長谷川 浩 研究基盤統括本部 本部長

10:35 山口大学 上西 研 理事・副学長（学術研究担当）

10:55 早稲田大学 天野 嘉春 研究推進部 部長

11:15 文部科学省における共用政策の今後 野田 浩絵 文部科学省 科学技術・学術政策局 研究環境課長

11:35 総合討論 研究大学群が目指すべきコアファシリティの在り方 パネリスト 5 機関の報告者

12:25 閉会挨拶

12:30 閉会

主催 文部科学省 共催 研究基盤EXPO 2025 協賛 研究基盤協議会

産学官のすべての研究者に開かれた研究設備・機器群について、大学・研究機関全体で戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化するための活動（コアファシリティ構築支援プログラム）の集大成を報告するとともに、今後の方向性について議論しました。

講演：事業取組の集大成

HOKKAIDO UNIVERSITY

北大コアファシリティ構想 事業活動報告

網塚 浩

網塚浩・北海道大学

令和2年度採択校 コアファシリティ構築支援プログラム成果報告

東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 副機構長/研究基盤戦略室長 教授 岩附 信行

岩附信行・東京科学大学

研究基盤EXPO2025 令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム Jan. 30, 2025

金沢大学コアファシリティ化の実現と成果 研究設備・機器の統括とそれに関わる人材の育成・活躍促進

金沢大学 学長補佐 教授 研究基盤統括本部長 長谷川 浩

長谷川浩・金沢大学

研究基盤EXPO2025 令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

山口大学コアファシリティ構築支援プログラム 事業の取組報告 ～成果の振り返りと次なるステージへ～

令和7年1月30日 山口大学理事・副学長（学術研究担当） リサーチファシリティマネジメントセンター長 総合技術本部部長 上西 研

上西研・山口大学

研究基盤EXPO2025 令和6年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

2025年1月30日 早稲田大学研究推進部 部長 天野 嘉春

天野嘉春・早稲田大学

講演：政策説明

文部科学省

共用政策の今後 ～先端研究基盤の強化について～

令和7年1月30日 科学技術・学術政策局研究環境課

文部科学省・野田浩絵

- 申込者数:508名
- 参加者数:287名 (速報値)

開会挨拶

高谷浩樹・文部科学省

文部科学省・高谷浩樹

閉会挨拶

野田浩絵・文部科学省

文部科学省・野田浩絵

総合討論

総合討論の様子

1月30日(木) 14:00-16:00 シンポジウム「ラボDXを推進するファシリティマネジメント」

共催：日本分析機器工業会 (JAIMA)
研究基盤協議会 (CORE)

研究基盤EXPO2025
JAIMA-CORE共催シンポジウム
一般社団法人 日本分析機器工業会 一般社団法人 研究基盤協議会 共催

ラボDXを推進するファシリティマネジメント

2025年1月30日(木) 14:00 - 16:00
開催場所：オンライン (Zoomを基に)

研究成果を生み出す場であるラボラトリー。その場のデジタルトランスフォーメーションへの機運が高まってきている。ラボDXとは、人、もの、機器、データがつながり、データが新たなデータを創出することで、指数関数的に研究成果が創出される研究環境の変革である。その変革をもたらすファシリティマネジメントのあり方について議論する。

研究成果を生み出す場であるラボラトリー。その場のデジタルトランスフォーメーションへの機運が高まってきている。ラボDXとは、人、もの、機器、データがつながり、データが新たなデータを創出することで、指数関数的に研究成果が創出される研究環境の変革である。その変革をもたらすファシリティマネジメントのあり方について議論しました。

◇申込者数:414名
◇参加者数:224名

開会挨拶



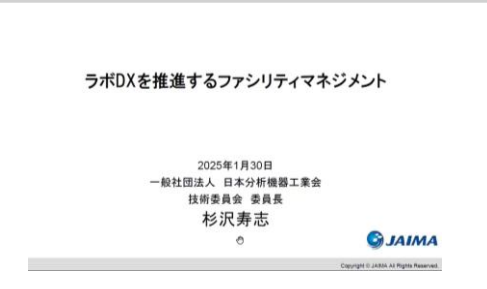
日本分析機器工業会 松浦 義和

司会



研究基盤協議会 岡 征子

講演 1



ラボDXを推進するファシリティマネジメント

2025年1月30日
一般社団法人 日本分析機器工業会
技術委員会 委員長
杉沢 寿志

Copyright © JAIMA All Rights Reserved.

講演 2



ラボDXを推進するファシリティマネジメント
2025年01月30日(木)

「JIS K0200計測分析機器の 分析データ共通フォーマットについて」 MaiML: Measurement/Analysis/Instrument Markup Language

九州工業大学・情報工学研究院・物理情報工学研究系
理事・副学長 (教育接続・連携 P F 推進, 情報統括)
安永 卓生

パネルディスカッション



パネリスト

文部科学省 井上 諭一



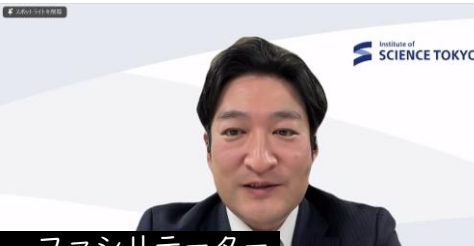
講演1・パネリスト

日本電子(株) 杉沢 寿志



講演2・パネリスト

九州工業大学 安永 卓生



ファシリテーター

研究基盤協議会 江端 新吾



パネリスト

(株)日立ハイテク 長我部 信行



パネリスト

大阪公立大学 藤村 紀文



パネリスト

物質・材料研究機構 松波 成行

1月30日 (木) 16:00-16:15 クロージング

司会



研究基盤協議会 榊 飛雄馬

振り返り



研究基盤協議会 岡 征子

総括



文部科学省科学技術・学術政策局研究環境課 課長 野田 浩絵

閉会挨拶



研究基盤協議会 理事・副会長 植草 茂樹



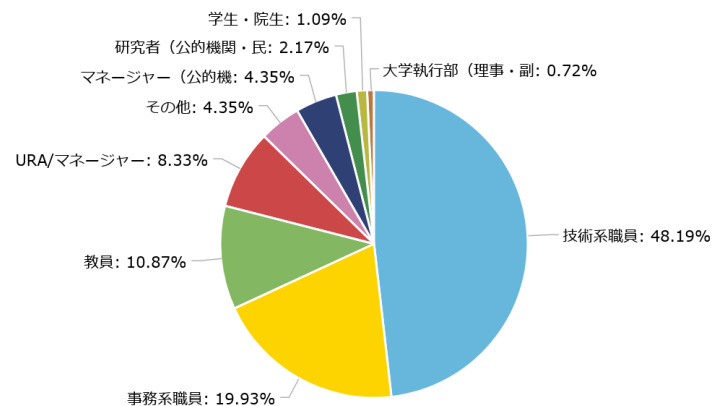


終了時アンケート

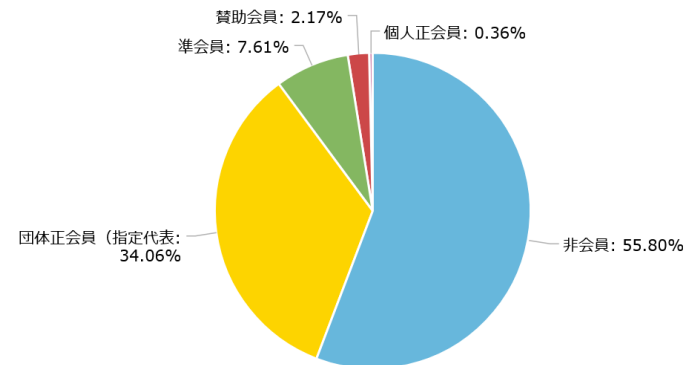
回答数 276

アンケート収集期間：2025年1月30日～2025年2月5日

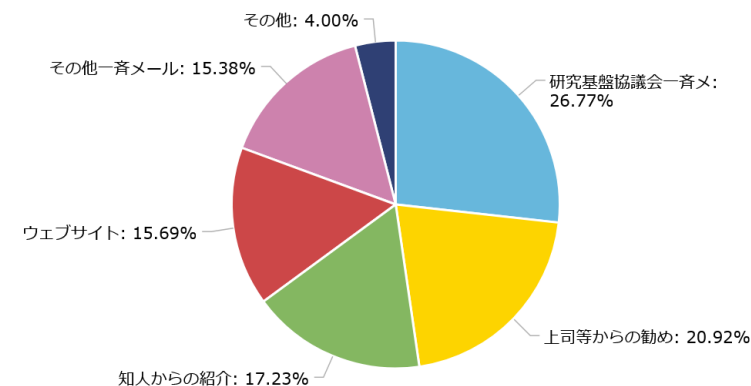
職種



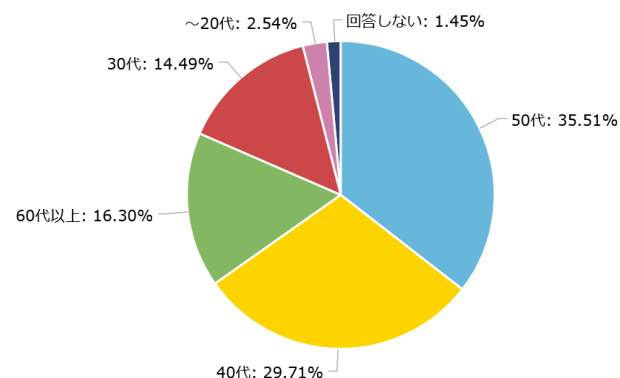
会員種別



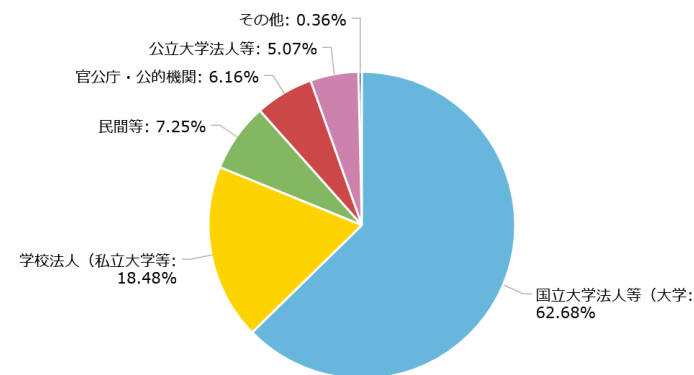
どこでイベント情報を知りましたか？



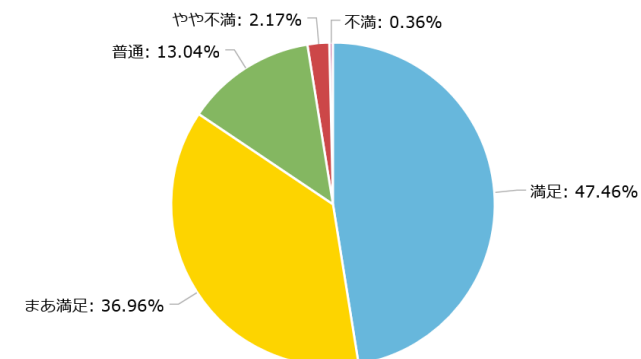
年齢層



所属



EXPO全体を通しての満足度





研究基盤エコシステム

～先端研究設備・機器の整備、人財、利活用、開発の好循環とは～

研究基盤EXPO 2025

実行委員会

委員長	江端	新吾	(東京科学大学)
副委員長	岡	征子	(北海道大学)
副委員長	熊本	明仁	(文部科学省)
副委員長	堀	格郎	(岡山大学)
委員	安東	真理子	(東北大学)
委員	江口	奈緒	(大阪大学)
委員	小川	剛伸	(京都大学)
委員	高橋	久徳	(東京科学大学)
委員	長井	圭治	(金沢大学)
委員	丸山	浩平	(早稲田大学)
委員	渡邊	政典	(山口大学)

主催



共催



協力



後援

